

手術後瘻孔形成例における漢方方剤の役割



千葉 庸夫 先生

赤石病院 小児外科

1967年 東北大学医学部 卒業
1983年 東北大学 第2外科 講師
1986年 同大学 小児外科 助教授
1991年 国立仙台病院 小児外科 医長
2004年 仙台医療センター 総合外科 部長
2008年 赤石病院 小児外科、総合診療科 部長

はじめに

外科領域では瘻孔を作ったり、あるいは瘻孔があるために治療に難渋するケースが少なくない。そのような場合にも漢方薬が有効な場合が多い。

術後の瘻孔は、血虚の状態に気虚の状態が加わった状態であると判断し、気血双補で、創傷治癒効果も期待できる十全大補湯を使用し良好な結果を得ている。そこで今回は腹部の瘻孔形成例2例について紹介する。

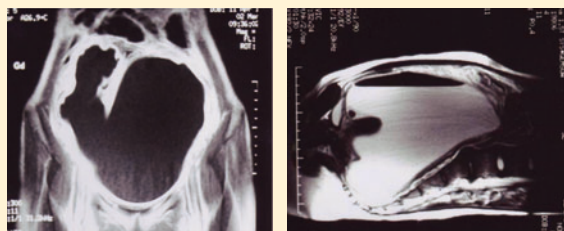
症例1 穿孔性虫垂炎術後の瘻孔

症例：13歳、女児

主訴：嘔吐・腹痛

現病歴：当院に来院する11日前から嘔吐・腹痛があり、経口摂取が不能であった。発症後3日目からは排尿時に下着に血液が付着し、下腹部が急速に腫大した。当初は小児科を紹介されたが、婦人科疾患を疑われた。婦人科ではMRI所見から卵巣由来の悪性腫瘍と診断された（図1）。検査所見では白血球数が $18000/\mu\text{L}$ と多い程度で、その他は軽度の貧血、肝機能の悪化を認める程度であった。腫瘍マーカーは大半が陰性で、CA125のみが高値を示した。この結果は、炎症あるいは腹膜刺激によるものと考えられ、婦人科では異常所見とは判断されず、当科に紹介された。

図1 症例1のMRI画像



経過：触診にて筋性防御反応を認め、これまでの経過から穿孔性虫垂炎を疑い、緊急開腹手術を施行した。発症後、既に11日が経過しており、膿汁が多量に貯留し、虫垂はすでに（壊死）消失していたため、ドレナージのみを施行した。ところが術後2日目から、黄土色の液が排出された。

本症例は体重45kgであり、体格は無力感はあるが中等度以上であった。脈はやや弱、細、遅。舌は微白苔、湿潤で歯痕はない。術後のため腹診をとることは困難であったが全体としては軟であった。また、ドレーン部より黄色の液体とさらに便も出てきたため明らかな糞瘻が形成されていた。

従来から瘻孔には十全大補湯が有効であることを経験しており、本症例でも瘻孔が形成された直後から十全大補湯を投与した。すると2週間ほどで、瘻孔からの便の排出はなくなった。その後、一時腹痛を訴えたので大建中湯を投与し軽快した。瘻孔は完全に閉鎖していなかったが、糞瘻を認めなくなったので退院した（図2）。その後、約1ヵ月間、十全大補湯の服用を続けたところ、瘻孔は完全に閉鎖した（図3）。

図2 症例1の経過

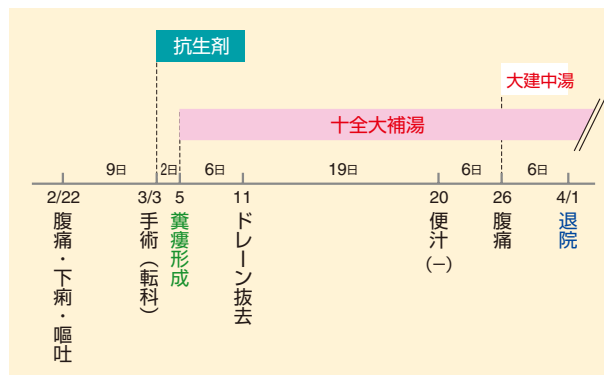
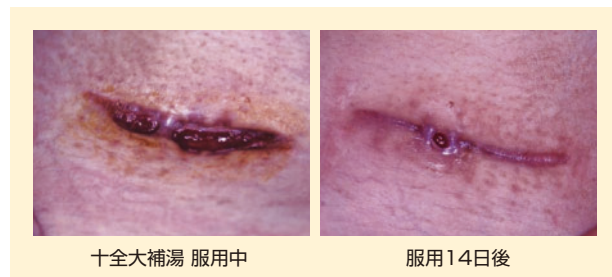


図3 症例1の瘻孔部の変化



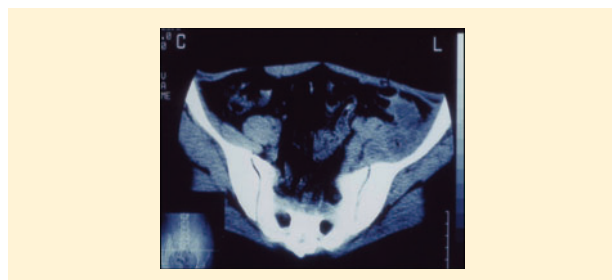
症例2 脂肪織炎術後の瘻孔

症例：15歳、女児

主訴：腰痛 歩行困難

現病歴：2～3週前より腰痛があり、近医で牽引を受けていたが改善せず、歩行困難となった。38℃の発熱がみられ、CT検査にて骨盤腔内に異常陰影（図4）が認められたため回復手術を受けた。しかし、腫瘍はかなり硬く切除困難で悪性リンパ腫を疑われ、化学療法を行うため当科を紹介受診した。

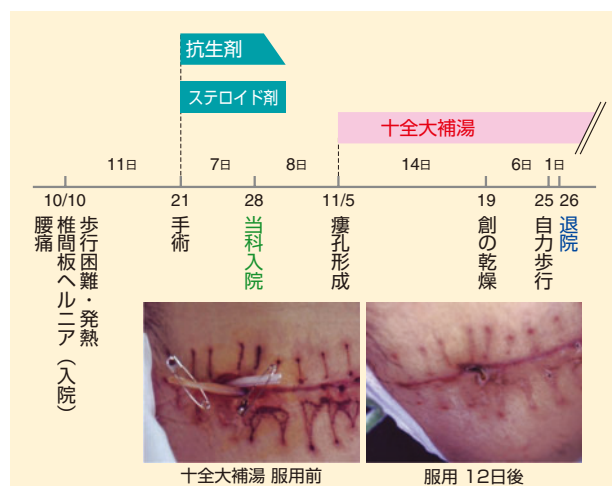
図4 症例2のCT所見



経過：検査所見で白血球数が19000/μLであった以外に異常所見を認めなかった。

組織学的所見では悪性リンパ腫ではなく脂肪織炎であったため、抗生剤にて経過観察したが、歩行困難などの症状は全く改善しなかった。むしろ創部に

図5 症例2の経過



当初はみられなかった瘻孔が形成され、さらさらした排液が多量に排出されるようになった。

本症例は15歳にも関わらず体重は60kgもあり、脈は沈、弱、舌は淡白苔を認めた。

そこで、十全大補湯を投与したところ、約2週で瘻孔が閉鎖し始め、歩行可能となったので退院した（図5）。

まとめ

術後の瘻孔に対しては抗生剤を投与し、局所の血流を改善し回復を図る。しかし困難な症例では手術的に除去されることが多い。このような状態は気血両虚であり、十全大補湯、黄耆建中湯、帰耆建中湯などの方剤が使用されてきた。演者らはこれまで腭瘻や唾液腺瘻にも使用しているが良好な結果を得ている。十全大補湯の構成生薬を創傷治癒機転からみると、本剤が瘻孔治療に適していることが明らかである（表）。

表 十全大補湯の構成生薬と創傷への働き

- 黄耆：托創生肌（排膿、潰瘍や瘻孔の治療）
- 桂枝：腹痛、冷えなどに（通陽、通経）
- 芍薬：止痛、皮膚化膿症や腫れに
- 川芎：腫痛（皮膚化膿症に）、腫れや疼痛に
- 白朮：利水（腫れに）、抗炎症
- 当归：排膿、止血、活気行気（腫れをとる）
- 人参：化膿創を内より除去、抵抗力をつける
- 茯苓：利水（浮腫をとる）
- 熟地黄：補血、養血
- 甘草：補中益気、止痛、抗炎症

COMMENTS

後山 十全大補湯は、術後の心身虚弱や術後の回復を早めるために使用され、高い効果をあげています。本剤は作用機序が明確であるようにも思いますが、いかがでしょうか。

千葉 たとえば、地黄で補血、その後、黄耆や人参で排膿、さらに茯苓で水を出す、というように傷をきれいに治す作用が明確です。小児や乳児の痔瘻にはとくに有効と考えています。花輪先生（北里大学東洋医学総合研究所）は、十全大補湯がアトピー性皮膚炎の汚いジュクジュクしたものにも有用であることを報告されており、そのようなことから本剤は瘻孔治療に有用であると思います。

後山 排膿や、良い肉芽形成が必要なときによいということですね。ありがとうございました。